

平成16年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 78	提案機関名 湘南地区農政事務所
要望問題 堆肥化施設等で発生する羽虫発生抑制技術の開発	
要望問題の内容 [背景・内容・対象地域及び規模 (面積、数量等)] <背景> ハウス型堆肥化施設内で大量発生する羽虫は、良好な堆肥を生産していたとしても発生を抑えるすべがなく、一般市民は普通のイエバエと混同し、あたかも周辺を飛び回っているイメージを抱いている方もおり、施設に対して不衛生な印象を与える原因となっているため、畜産農家からは、殺虫剤を使わずに羽虫を抑える方法がないものか問い合わせがある。 <内容> 攪拌方法や温度状況などが、羽虫の発生にどのような影響を与えるのかを調査することにより、羽虫発生メカニズムを把握し、良質堆肥の生産を維持しつつ、施設管理による羽虫の発生抑制技術を開発する。 <対象地域> 県下一円	
解決希望年限	①1年以内 ②2~3年 ③4~5年以内 ④5~10年以内
研究対応区分	①研究所対応 ②委託研究 ③共同研究 ④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所(②根府川試験場③三浦試験場④津久井試験場) ⑤畜産研究所⑥水産総合研究所(⑦内水面試験場⑧相模湾試験場)

*ここから下の欄は、回答者が記入して下さい。

回答機関名	畜産研究所
部 署	企画経営部
対応区分	①実施②実施中 ③継続検討④実施済⑤調査指導対応⑥現地対応⑦実施不可
試験研究課題名	(①、②、④の場合)
対応の内容等	羽虫の発生抑制にはハウス処理をする際の発酵初期の水分調整が最も重要であり、生ふん投入後周囲の乾燥堆肥で覆うなどの方法でこれができるれば、その後の発酵が順調に進み、温度も60℃以上に保つことでウジや卵を不活化でき、羽虫の発生抑制に効果的と思われます。
解決決定年限	①1年以内 ②2~3年以内 ③4~5年以内 ④5~10年以内
備考	

